

# 一般社団法人日本鉱物科学会 2018年度 定時総会 資料 決算及び事業報告

日時：2019年9月21日（土）8:45～10:10

場所：九州大学 伊都キャンパス イーストゾーン 大講義室 II  
（〒819-0395 福岡市西区元岡744）

開会宣言：

会長挨拶：

物故会員への黙禱：	ほり ひでみち 堀 秀道 名誉会員	あおき よしかず 青木 義和 名誉会員
	せき ようたろう 関 陽太郎 永年会員	ひでひら しげひさ 秀平 重久 永年会員
	へんみちよこ 逸見千代子 シニア会員	にしむら ひろし 西村 宏 シニア会員

議長選出：( ) 会員

定足数の確認：880名×10% = 89人以上

( ) 名(当日\_\_\_\_人 + 委任状(書面)\_\_\_\_人含)

## 目的事項

### 報告事項

- ・2018年度（一般社団法人第 期）事業報告  
（和文誌，英文誌編集，行事，広報，渉外，庶務，Elements，会員，その他）
- ・2019年度（一般社団法人第 期）事業計画書及び収支予算案などの件
- ・その他

### 決議事項

- ・第1号議案 2018年度（一般社団法人第 期）決算承認の件

### 資料

1. 2019年度収支予算(16頁)
2. 2018年度決算報告書
  - 1) 貸借対照表(17頁)
  - 2) 正味財産増減計算書(18-19頁)
  - 3) 財務諸表に対する注記(19頁)
  - 4) 附属明細書(19頁)
3. 監査報告書(20頁)

## 授賞式

- 一、日本鉱物科学会賞授与
- 一、渡邊萬次郎賞授与
- 一、日本鉱物科学会論文賞授与
- 一、日本鉱物科学会研究奨励賞授与
- 一、JMPS学生論文賞授与

## 協定調印式

モンゴル資源地質学会と一般社団法人日本鉱物科学会とのが学术交流協定調印式

# 報告事項

## 1. 2018年度事業報告 (一般社団法人第 期 2018年8月1日～2019年7月31日)

### 榎並 正樹 会長 挨拶

一般社団法人日本鉱物科学会が定款に定める事業の概要は以下のとおりである。

第4条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 和文誌(岩石鉱物科学)、英文誌(Journal of Mineralogical and Petrological Sciences)その他の冊子版、電子版による発行
- (2) 総会、講演会、研究部会、その他学術に関する集会及び行事の開催
- (3) 研究の奨励及び業績の表彰
- (4) その他本会の目的を達成するために必要な事業

2018年度は一般社団法人日本鉱物科学会として第 期の事業報告になります。

会員の皆様もご存知のとおり、平成28年9月30日に任意団体日本鉱物科学会は解散し、平成28年10月1日に一般社団法人日本鉱物科学会が発足しました。第 期を終え、皆様のご協力のもと、お陰様で法人として順調に学会事業を執行することができました。ここに改めて御礼申し上げます。

社団法人化の記念事業の一環として、平成28年9月に「ひすい(ひすい輝石及びひすい輝石岩)」を国石として選定しましたが、この事業の関連事業として、毎年年会開催時に一般普及講演「日本の国石・ひすい」の開催をすることとなりました。また、本会監修の『日本の国石「ひすい」 パラエティに富んだ鉱物の国』と「鉱物・宝石の科学辞典」も、関係各位の協力のもと刊行されました。

今年度は、2019年7月23日から8月28日まで実施したアンケートにお寄せいただいたご意見を参考に、今後の学会のあり方を会員の皆様と一緒に考えていきたいと思っております。

以下の個別の事業状況については、各業務を一任している各担当者から報告します。

### (1) 和文誌(岩石鉱物科学)、英文誌(Journal of Mineralogical and Petrological Sciences)、その他の冊子版、電子版による発行事業

#### 【1】和文誌(岩石鉱物科学)編集報告(長瀬和文誌編集幹事・理事)

##### 1. 2019年8月29日第3回理事会報告

<編集状況報告 2019年7月31日現在>

- (1) 発行状況: 48巻2号(6月5日発行済み)受賞研究紹介2編, 日本新産鉱物情報, 新刊紹介, 2019年年会お知らせ  
48巻3号(10月初め発行予定): 原著論文1編, 資料1編, フィールド紹介1編他

- (2) 現在査読中論文: 1編

- (3) 2019年9月20日(金) 12:00-12:30 GKK編集委員会を開催予定。編集委員の交代など検討する。

<岩石鉱物科学47巻3号, 4号, 48巻1号, 2号(4号分)> (2019年7月31日現在)

4号分	件数	頁
原著論文	2件	38 p
短報	0件	0 p
総説	0件	0 p
資料・解説	9件	71 p
訂正	1件	1 p
新刊紹介	3件	2.5p
ニュース(他学会案内等)		0.5p
投稿規定		9 p
学会記事(理事会・総会議事録)		51 p
その他の記事		2 p
追悼文		1 p
総目次		3 p
広告 4件		3 p
白頁		3 p
今年度4号分合計		186 p
昨年度4号分合計		53p/号
		212 p

##### 2. 2019年5月25日第2回理事会報告

2018年9月19日(木)12:00-12:30 GKK編集委員会報告

(会場: 山形大学小白川キャンパス基盤教育1号館132教室)

<編集状況報告>

- 1) 発行状況: 47巻2号(7月25日発行済み) 原著論文1編, 資料1編, 日本新産鉱物情報, 新刊紹介, 学会記事掲載。  
47巻3号(10月末発行予定): 原著論文1編, 資料1編, フィールド紹介1編, 追悼文など掲載予定

- 2) 現在査読中論文: 0編

<審議事項>

- 1) 編集委員の交代について  
定年による委員の退任(総会終了までで退任), 後任委員推薦
- 2) その他

#### 【2】英文誌(JMPS)編集報告(吉朝英文誌編集幹事・理事)

##### ・編集委員会報告

##### 1. 2019年8月29日第3回理事会報告

<編集状況 2019年7月31日現在>

- 1) 投稿数状況: 5月26日以降 原著論文7編(ロシア1編, 中国1編, Letter 9編(2019JpGU大会講演Letter募集申込12件中投稿7編)(インド1編) [参考:表1]

- 2) 編集状況: 早期公開中0編, 受理論文3編, 査読中:19編 返却中: 5編, リジェクト1編

- 3) 発行状況: 114巻3号(6月)(7月11日公開, 114巻4号(8月)原著論文5編, Letter 1編 印刷中, 114巻4号(10月)受理論文3編印刷準備中 [参考:表2]

- 4) **2018 JMPS Impact Factor: 1.472** (2017 1.030, 2016 0.409, 2015 0.648, 2014 0.742, 2013 0.656, 2012 0.589)  
How is Journal Impact Factor Calculated?

$$\frac{\text{Citations in 2018 to items published in 2016 (74)+ 2017(32)}{106}{\text{Number of citable items in 2016 (34) + 2017 (38)}{72}} = 1.030$$

- 5) 2019年年会発表講演論文募集

投稿申込締切日: 2019年10月15日(火) 締切日厳守, 原稿提出締切日: 2019年11月25日(月) 締切日厳守

- 6) JMPS メール会議報告: 2019年7月25日から8月2日まで下記の2点についてメールで審議した。

副編集委員長の人数を3人にする内規変更。承認されたので、理事会に諮る。

**編集委員の追加: 承認されたので理事会に報告。**

[参考:表1] WEBシステム利用後の投稿数

	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
Jan	3	2	2	5	2	4	7	5
Feb	2	2	1	2	2	0	2	1
Mar	2	0	4	2	2	7	3	1
Apr	2	3	1	5	3	12	5	5
May	4	0	3	5	4	3	4	3
Jun	12	6	9	4	3	5	2	3
Jul	3	3	8	9	12	9	6	6
Aug	5	2	1	7	1	2	2	9
Sep	2	1	4	5	2	2	4	
Oct	14	11	16	9	3	4	3	
Nov	5	4	4	5	8	9	18	
Dec	3	2	6	5	2	4	2	
Total	57	36	59	63	44	61	58	33

[参考:表2] 113巻4号(8月)~114巻3号(6月)(2019年7月31日現在)

6号分	件数	19/7/31
Reviews	0件	
Articles	25件	260 p
Letters	7件	37 p
Technical	1件	11 p
Editorial		
Errata		
規程		5 p
Index		5 p
Contents		5 p
白頁		3 p
合計頁		326 p 6号分
1号平均頁		54 p

- 2018年9月19日(木) 12:30-13:30 山形大学小白川キャンパス基盤教育1号館132教室  
 <報告事項>  
 編集状況:昨年度平成29年度(会計期間)発行状況:112巻2号(4月)~113巻1号(2月)発行完了。  
 <審議事項>  
 編集長・編集委員の交代について 1) 委員長の交代:吉朝 朗, 2) 副委員長の交代:永井隆哉, 3) 委員の交代  
 投稿論文不足の件
- 2019年5月25日(土)13:00-13:45にJMPS編集委員会を開催したことを報告します。  
 <報告事項>  
 JMPS状況報告:1) 投稿数状況 2) 編集状況 査読中:9編 返却中:13編 受理印刷済:5編  
 3) 発行状況JMPS113巻3号(6月号)~114巻2号(4月号)発行済 計6号発行  
 今後の発行予定:114巻3号(6月号)(印刷済5編)
- 2019年2月25日から3月7日まで、メールで審議特集号提案について結果報告。  
 The tentative title: Tracking plate tectonics and related events in the Indian continent from Archean to recent times.  
 Guest editors: Kaushik Das, Jun-ichi Ando  
 10名回答: 賛成8票 反対2票

反対者からの意見・コメント:

- 「JMPSの目的と少しずれているものも見られます。」
- 「会員へのメリットが少なすぎる」
- 「経営上のメリットを配慮していただきたい。何部以上の別刷り購入や参加者を含めて300部程度は購入していただきたい、など。」
- 「下記に書かれている特集号の内容、リストされている論文タイトルのいくつかを拝見すると、JMPSがカバーすべき分野とはやや隔たりがあるかと思えます。広島大の方々がコントリビュートを予定している内容はOKかと思えますが、もしも、私のところにレビュー依頼が来たら、「分野違い」として別のジャーナルに投稿せよ、という判断になるものも含まれます。もちろん、委員の多数決などで特集号の提案が認められれば、それについては異存はありません。」提案者のご努力を期待します。

賛成者からのコメント・配慮頂きたい点:

- 日本人による共著は1つだけです。もっと多くの日本の研究者や学生がインド地域の研究をなされています。日本の著者の貢献をもっと少し増やすことを期待しています。読者増にも繋がると思えます。検討をお願いします。
- 特に問題視するわけではありませんが、日本側の寄与が少ないのは少し気になります。
- 「編者はともかく、著者に会員が含まれるのが1本だけというのが、なんとなく気になります。」

■結果■

以上から、特段連絡がない場合は賛成とすることでご了承いただいていたので、この特集号を進めることを、承認したいと思えます。コメントや意見に対して、前向きな努力をお願いします

<特集号進捗情報報告>

提案特集号の上記承認結果(2019.3.15のメール審議JMPS編集委員会)を受けて、ゲストエディターの広島大学ダス先生と安東先生に本特集号について進めていただいている。もともと提案された著者に加えて、日本人の著者数人を加えて、現在10件ほどの論文集になる方向で進んでいるとの事。2019年度中にまとめられるようなスケジュールを組んでいるとの事。(代理報告:井上徹)

II. Letter 企画報告

2018年年会講演を対象にLetterを募集 申込12件 投稿5件  
 2019 JpGU大会講演を対象にLetterを募集 申込12件 投稿7件

III. 2018年度JMPS学生論文賞授賞論文報告

受賞者は、後記(3)研究の奨励及び業績の表彰」に記載する。

IV. JMPS学生論文賞選考方法の件

<委員からのコメント>以下の2点を思うと同数1位と3位の間の差2点に大きな意味が見いだせません。

1. 10名の方が投票されていない
2. 投票するに際して、4編の論文(実質的には対象者は三名なので3編と言い換えてもよいでしょう)に対して、3位までの点数をつけることに疑問を感じていました。それでも、どmustだと思ひ、義務として私は3位まで投票した。論文の質に疑義があるわけではありません。ただ、少し話し合う時間があってもよいのではないのでしょうか。

V. ページチャージ割引率30%を15-20%へ減額する継続審議

VI. 冊子体はモノクロで電子ジャーナルをカラーにする継続審議

カラーのみ電子付録は中止にして、電子ジャーナルPDF論文のみをカラー印刷にする選択の有無と、その著者費用の継続審議。

VII. 2019年9月20日13:00~13:30 2019年第2回編集委員会開催予定(九州大学伊都キャンパス)

新副編集委員長、編集委員の交代、特集号状況など。

## (2) 総会、講演会、研究部会、その他学術に関する集会及び行事の開催事業

### [1] 行事報告・年会報告(機部行事幹事)

1. 一般社団法人日本鉱物科学会 2018年年会・総会  
日程：2018年9月19日(水)～21日(金) 会場：山形大学小白川キャンパス

#### < 一般社団法人日本鉱物科学会 2018年年会・総会報告 >

2018年9月19日(水)より9月21日(金)まで、山形大学小白川キャンパス基盤教育1,2号館などにおいて、一般社団法人日本鉱物科学会2018年年会・総会が開催され、セッション形式による口頭講演、ポスター講演、懇親会、定時総会、定例理事会、各種委員会、学会賞等受賞講演、市内ツアー、蔵王巡検、クロージングセレモニー、一般普及講演が行われた。

2018年年会ではセッションは、スペシャルセッション(2件)、レギュラーセッション8件(R7: 岩石・鉱物・鉱床一般は資源地質学会と共催)であった。

年会での発表講演総数は198件(口頭116件、ポスター82件)であった。年会参加者総数は241名(一般会員159名+学生会員56名+非会員一般4名+非会員学生22名)であり、懇親会参加者総数は134名(一般111名+学生23名)であった。

また、一般社団法人移行後初めての定時総会が行われ、出席社員数249名[本人出席106名+書面143名(代理人行使114名+書面権行使29名)]があり、社員数896名の約35%の出席となり、無事決算の承認が行われ、続いて各賞の授賞式が執り行われた。

懇親会は市内のホテル・キャッスルで開催され、参加者同士の親睦がおおいに深められた。展示業者は5社であった。

なお、LOCのご尽力で、山形観光コンベンション協会から150,000円の補助金を受けることができた。

今年の「研究発表優秀賞」受賞者は、審査の結果下記4名が決定し、昨年同様、クロージングセレモニーを開催して、学生研究発表賞受賞者発表・表彰授与を行った。また、次期年会の紹介もなされた。受賞者は、後記(3)研究の奨励及び業績の表彰」に記載する。LOCのご協力をいただき、2018年9月22日に、蔵王温泉・蔵王山(山形県山形市、上山市、宮城県蔵王町)への巡検が実施された。

また、平成28年9月に「ひすい(ひすい輝石及びひすい輝石岩)」を国石として選定しました関連事業として、今回初めて一般普及講演「日本の国石・ひすい」をゆうキャンパス・ステーション(山形駅前)で行い、遠くからもご参加いただき好評であった。

2. 日本地球惑星科学連合2019年大会  
日程：2019年5月25日(日)～5月30日(木) 会場：幕張メッセ国際会議場

3. 2019年5月25日第2回理事会報告 2019年年会・総会準備報告

日本鉱物科学会 2019年年会・総会 日程：2019年9月20日(金)～22日(日)

会場：九州大学伊都キャンパス イーストゾーン(イースト1号館)

〒819-0395 福岡市西区元岡7 4 4 年会案内を年会HP公開中

#### 1) 例年とは異なる予定

9月19日(木) 13:00-15:00 科研費説明会

9月21日(土) 総会後半 モンゴル資源地質学会との協定調印式

9月23日(月)～9月24日(火) 阿蘇・九重地域の火山と地熱帯：高千穂、阿蘇、鯛生金山

9月23日(月) 9:00～12:00 九州大学「高標本」と工学部「列品室」見学会：旧箱崎キャンパス

9月23日(月) 3:00～ 九州大学西新プラザ(福岡市西区西新)日本鉱物科学会一般普及講演「日本の国石・ひすい」

#### 2) 参加登録費について

昨年までの講演申込システムとプログラム編成講演要旨公開システムは別会社を利用していた。費用は97,200+399,600=合計約50万円。しかし値段の割に動きが重いしデザインもいまいちである。また、J-Stageで公開する別のファイルを作成しなければならぬので別途費用が5万円掛かる。

以上から、講演申込システムの会社のプログラム編成講演要旨公開システムも一貫して利用することについて、行事委員会とLOCとで協議した。費用は60万円から講演数により65万円になる。「参加登録料及び懇親会費の金額は現地運営委員会が決定する。」とガイドラインにあるが、行事委員会と協議して差額は参加者に負担していただくことにして以下の様に値上げをすることにした。

#### 事前料金

一般正会員 7,000円(1,000円値上げ)	学生正会員 3,500円(500円値上げ)
非会員(一般) 11,000円(1,000円値上げ)	非会員(学生) 5,500円(500円値上げ)
当日料金一般正会員8,000円(1,000円値上げ)	学生正会員 4,000円
非会員(一般) 8,000円(1,000円値上げ)	非会員(学生) 4,500円

- 3) 演申込み期間：2019年6月24日(月)10:00～7月16日(火)20:00まで(ウェブサイト利用)

4. 2019年8月29日第3回理事会報告

2020年年会報告(2020年年会運営委員会委員長 土屋範芳 理事)

開催日時：2020年9月16日(水)、17日(木)、18日(金)、(一般普及講演 19日(土))

開催場所：東北大学 青葉山新キャンパス(地下鉄東西線 青葉山駅下車徒歩3分圏内)

東北大学 環境科学研究科 ならびに 青葉山 commons, 理学研究科

2020年年会運営委員会委員

委員長：土屋範芳(環境科学)、会計責任者、企業展示募集責任者

副委員長：(行事委員会との接点) 岡本敦(環境科学)(2019年度行事委員に参画する)

副委員長：(学会本部との接点) 中村美千彦(理学)

副委員長：(鉱物系研究者との接点) 杉山和正(金研)

副委員長：(プログラム) 辻森 樹(東北ア)

学会行事委員会との接点：(正) 岡本 敦、(副) 宇野正起

プログラム関係：辻森 樹

Web係：宇野正起(環境科学)、平野伸夫(環境科学)学会ホームページの掲示、募集他webの内容は学会行事委員マター、LOCとしての情報提供などを所掌

(実質的には宇野さんが学会行事委員との接点になる)

会場係(設営、学生バイトなど)：栗林貴弘(理学)、無盡真弓(理学)、松本恵(理学)

懇親会係：奥村聡(理学)

アウトリーチ係：長瀬敏郎(理学)このほかに巡検を開催する場合に、その担当が必要。

5. 2019年5月25日の第2回理事会にて年会緊急対応についての案が紹介され審議された。

2018年9月20日の第1回理事会で、昨今の自然災害（地震、台風）により学会開催が中止になった状況から、当学会でも検討するようにと継続審議となっていた件、磯部理事幹事により緊急対応について提案がなされ、大筋は承認された。

#### 【1】日本鉱物科学会年会における緊急対応基本方針（案）

本方針は、日本鉱物科学会年会開催にあたり、非常変災等への緊急対応についてその基本方針を定めるものである。

1. LOCにおける事前情報収集（例）  
屋内・屋外避難場所、気象警報等に対する開催校対応規定、公共交通機関の状況についての情報源、会場費、懇親会費、巡検経費等についてのキャンセル時負担額
2. 会期前における対応
  - 1) 気象警報等の発令が予想される場合  
必要に応じ、気象庁サイトにより開催地所在地における気象警報発令状況および台風の進路等を確認する。  
例：福岡市 [https://www.jma.go.jp/warn/f\\_4013000.html](https://www.jma.go.jp/warn/f_4013000.html)（福岡市）  
気象警報・注意報(図表形式)当日・翌日の推移 警報級暴風等の見通し<https://www.jma.go.jp/typh/storm-346.html>（福岡県）  
台風の暴風域に入る確率（地域ごと時間変化）
  - 2) 地震等発災の場合：LOCは、会場及び公共交通機関等の被害状況について情報を収集する。
  - 3) 開催可否の検討：地震等が起こった場合、または、会期中に会場周辺に暴風警報等が発令される恐れがある場合は、開催の可否について検討する。判断は、LOCによる情報を元に、会長、LOC委員長、行事委員長の合議により決定する。  
一般公開行事については、開始3時間前の時点で暴風警報等が発令されている場合は中止する。順延、日程変更等は行わない  
判断に際しては、年会・総会、巡検、一般公開行事それぞれの参加者の安全確保を最優先として検討する。  
判断結果は直ちにHP（学会トップページ）等にて告知する。  
警報等が解除され、安全が確保される見通しがある場合は、2日目以降からの開催を検討する。  
日程延長、代替日程による開催は原則として行わない。
3. 会期中の地震、火災、停電等への対応
  - 1) 開催中の場合  
参加者の安全確保を最優先とし、開催校の避難情報に従って対応する。状況に応じ、中止を含め臨機応変に対処する。  
プログラム打ち切りについては、LOCによる情報を元に、会長、LOC委員長、行事委員長の合議により判断する。短時間の停電等の場合、座長、コンピーナー、LOC、行事幹事等の判断によりプログラムの繰り下げを検討する。翌日以降への順延は行わない。
  - 2) 開催時間外の場合  
開催継続について可否を判断する。LOCによる情報を元に、会長、LOC委員長、行事委員長の合議により判断する。判断結果は直ちにHP（学会トップページ）等にて告知する。
4. 開催中止となった場合の参加キャンセル、発表への対応
  - 1) キャンセル者の支払い済み参加登録費、懇親会費及び巡検参加費について  
払い戻しはしない。ただし、開催中止によるLOCの費用負担が発生しない場合は、送金費用等を除いた金額の返金を、事務作業量として可能な範囲で検討する。
  - 2) 発表について  
コンピーナーは、中止となったセッションでの発表について、発表者に取り下げの意思を確認する。  
取り下げる場合：プログラムから削除し、要旨公開は行わない。  
取り下げない場合：要旨を公開し、発表済みとして扱う。  
開催地以外での災害等により不参加となった場合は、発表キャンセルとして扱う。

#### 【2】日本鉱物科学会年会における緊急対応基本方針（案）

##### ■要検討事項

- ・一般公開行事についての取扱は上記で良いか？
- ・開催中止等の周知方法はwebページだけで良いか？更新方法は？他に適切な手段はあるか？電話窓口？会期中の日程変更についての告知方法は？他に手段は？可能であれば、短縮日程での開催（例えば、二日目から）を目指すことを基本として良いか？中止セッションの発表者については、できる限り会期中に発表の機会を設ける。・日程変更、代替日程による開催は原則として行わないとして良いか？救済措置は必要ではないか？要旨の公開のみで発表実績としてよいか？
- ・中止セッションでの発表 取り下げる場合：プログラムから削除し、要旨公開は行わない。同内容を別途発表する場合、二重投稿とならずに済むようにする。 取り下げない場合：要旨を公開し、発表済みとして扱う。参加費未納の場合は請求する？
- ・当日内のプログラム繰り下げは、最大2時間程度として良いか？

#### 【2】広報報告(大藤広報幹事・理事)

1. 2019年5月25日第2回理事会報告
  - 1) 広報委員会委員の主な役割の分担：HPの更新作業の対応：糺谷浩委員（を中心に委員全員で対応）JpGUブース展示：斉藤哲委員（および学会参加の委員で対応）、Twitterの管理運営：石橋秀巳委員、Facebookの管理運営：浜田麻希委員、その他諸々の対応：大藤委員長。
  - 2) 会員へのML送信を実施した（2019年は現在までに5件）。内容は、学会事務連絡、公募案内、関連学会案内など。
  - 3) Face bookとtwitterリンクと学会HPのシンクロ、随時更新強化
  - 4) 連合大会の日本鉱物科学会ブース展示対応は以下の通り。なお、事務員不在の時間帯を委員交代で担当。
    1. 学会誌GKK、JMPSの紹介と配布、年会、表彰、入会案内
    2. 学会会員執筆書籍の展示・紹介
    3. 学会員に配布されている“Elements”の紹介と配布、
    4. 「一家に1枚：鉱物-地球と宇宙の宝物」ポスターの紹介と配布、
    5. 寄贈試料の展示、
    6. ポスター刷新、
    7. 偏光顕微鏡で薄片観察紹介
- 5) 広報委員会として高校生向けに無料のショートセミナー「偏光顕微鏡で覗く岩石薄片の世界」を実施（機材は愛媛大学提供）チラシ作成、Facebookとtwitter 学会HPにお知らせを掲載
- 6) ジョイテックさんからミャンマー産の研究用ひすいとスピネルの寄贈があり、一部を今回のショートセミナーの景品に使用。
- 7) 地学オリンピックでの「一家に1枚：鉱物-地球と宇宙の宝物」ポスター配布。
- 8) 奥山康子会員から上記ポスターA2判1,000枚（推定20万円）の寄贈申し出があり、まず300枚寄贈いただいた。残りは掲載内容の修正を行ってから寄贈いただく予定。

## 2. 2019年8月29日第3回理事会報告

- 1) 会員へのML送信(5/26以降5件)を実施した。内容: 年会開催関係, アンケートお願い, 総会予告, 関連学会案内等。
- 2) 2019連合大会の日本鉱物科学会ブース展示を行った。1. 学会誌GKK, JMPSの紹介と配布, 年会, 表彰, 入会案内, 2. 学会会員執筆書籍の展示・紹介, 3. 学会員に配布されている“Elements”の紹介と配布, 4. 「一家に1枚: 鉱物-地球と宇宙の宝物」ポスターの紹介と配布, 5. 寄贈試料の展示, 6. 学会紹介ポスター刷新, 7. 偏光顕微鏡を設置し, 薄片観察を実演・体験
- 3) 2019連合大会初日の5/26にブース出展者がエントリーできる無料のショートセミナー「偏光顕微鏡で覗く岩石薄片の世界」を実施(機材は愛媛大学提供)。高校生を中心に30名弱の参加者があった。また, その宣伝を学会の公式TwitterとFacebookアカウントを通じて行った。なお, ショートセミナーの参加者にはお土産として(ジョイテックさんより提供いただいた)ミャンマー産のスピネルとヒスイ(限定3名)を配布した。ショートセミナーと偏光顕微鏡薄片観察の実演は好評であった。

### 【3】渉外報告(森下渉外幹事・理事)

2019年5月25日第2回理事会報告: 「本学会会員執筆書籍の展示」は, 毎年引き続き行われております。今年度は以下の4冊の寄贈があり2018年連合大会から合計34冊となった。

31. 新しい地球惑星科学 (西山忠男・吉田茂生(編著))
32. 『鉱物 一石への探求がもたらす文明と文化の発展』(大阪大学総合学術博物館叢書16)(代表著者): 石橋 隆
33. 地球と生命の大進化! 地球46億年のひみつ (代表著者): 森下知晃
34. 『日本の国石「ひすい」 パラエティアーに富んだ鉱物の国』(代表著者): 土山 明

### 【4】Elements報告(興野Elements幹事)

2019年5月25日第2回理事会報告

既に6月号までの下記の下記の原稿をElementsに入稿。現在8月号のトピックス記事を依頼中。10月, 12月号は学会賞の紹介記事を掲載予定。

- 2019No.1 2月号(原稿締切 2018/11/23): 榎並会長 From President, Invitation to the JpGU Meeting 2019, JMPS Contents Vol.113, no.6, December 2018
- 2019No.2 4月号(原稿締切 2019/1/25): Aquaplanetology -A project that quests for planetary habitability in the Solar System and beyond (東工大・関根会員), 国際結晶成長会議報告(東北大・中村会員), JMPS Contents Vol.114, no.1, February 2019
- 2019No.3 6月号(原稿締切 2019/3/29): Asian continent; the origin, formation, and growth (九大・中野会員), JMPS Contents Vol.114, no.2, April 2019
- 2019No.4 8月号(原稿締切 2019/5/24): トピックス「地球科学におけるデータ駆動型解析の最新研究」(JAMSTEC・桑谷氏), JMPS Contents Vol.114, no.3, June 2019
- 2019No.5 10月号(原稿締切 2019/7/26): 学会賞, 渡邊萬次郎賞, 櫻井賞の紹介, JMPS Contents Vol.114, no.4, August 2019
- 2019No.6 12月号(原稿締切 2019/9/27): 研究奨励賞, 応用鉱物科学賞, 論文賞の紹介, JMPS Contents Vol.114, no.5, October 2019

## (3)研究の奨励及び業績の表彰 (中村庶務幹事・理事)

### 【1】2018年度日本鉱物科学会賞表彰

- 第20回受賞者: 野口 高明 会員  
業績題目: 原始太陽系における物質進化に関わる岩石鉱物学的研究
- 第21回受賞者: 山崎大輔 会員  
業績題目: 構成物質のレオロジーに基づく核・マンツルのダイナミクスの研究とそのための高圧実験技術開発

### 【2】渡邊萬次郎賞表彰

- 第35回受賞者: 青木義和 名誉会員

### 【3】2018年度日本鉱物科学会論文賞表彰

- 第20回受賞論文  
Title: Mullite in a buchite from Asama volcano and its sub-micrometric core-rim texture with sillimanite. Journal of Mineralogical and Petrological Sciences, 113-4, 198-206, 2018.  
Authors: Yohei IGAMI, Akira MIYAKE, Norimasa SHIMOBAYASHI  
受賞者: 伊神洋平会員, 三宅 亮会員, 下林典正会員
- 第21回受賞論文  
Title: In situ observation, X-ray diffraction and Raman analyses of carbon minerals in ureilites: Origin and formation mechanisms of diamond in ureilites. Journal of Mineralogical and Petrological Sciences, 111-4, 252-269, 2016.  
Authors: Yoshihiro NAKAMUTA, Fumio KITAJIMA, Kazuhiko SHIMADA  
受賞者: 中牟田義博会員

### 【4】2018年度日本鉱物科学会研究奨励賞表彰

- 第25回受賞者: 吉村俊平 会員  
研究対象: 「火山噴火現象の実験的・理論的研究」
- 第26回受賞者: 篠崎彩子 会員  
研究対象: 「地球深部・氷天体深部での炭素、水素、窒素関連物質の振る舞いの解明」

### 【5】2018年度JMPS学生論文賞受賞論文表彰

- 第7回受賞論文: Tomoya TAMURA, Ryo SUGAYA, Atsushi KYONO: Formation of Fe(III)-oxides on the magnetite surfaces in the low-temperature hydrothermal reaction  
受賞者: 田村知也 投稿時: 筑波大博3
- 第8回受賞論文: Yumiko TSUBOKAWA, Masahiro ISHIKAWA, Tetsuo KAWAKAMI, Tomokazu HOKADA, M. SATISH-KUMAR, Noriyoshi TSUCHIYA, G.Eoffrey H. GRANTHAM: Pressure-temperature-time path of a metapelite from Mefjell, Sør Rondane Mountains, East Antarctica  
受賞者: 坪川 祐美子 投稿時: 横国大博2

## 【6】2018年年会研究発表優秀賞表彰

第46回受賞者 木村皐史(東京大学) R6-01: 早池峰-宮守オフィオライト中のCumulate memberから制約するスラブ断裂のマントルダイナミクス

第47回受賞者 東 佳徳(京都大学) S2-09: フッ素アパタイト中の水素拡散

第48回受賞者 川村英彰(愛媛大学) R3-10: 上部マントル条件、C-H-O流体共存下におけるマグネサイトの分解

第49回受賞者 萩原雄貴(北海道大学) S1-P02: 流体包有物の地質圧力計としての可能性を探る: 体包有物の再平衡過程解明に向けたその場密度測定法の開発

<2018年9月20日の第1回理事会において、以下のガイドラインの改正要望があり、審議の後、承認された>

E. 研究発表優秀賞の選考ならびに海外渡航支援制度に関するガイドライン<抜粋>

(選考方法)

1. 年会での研究発表優秀賞の選考について、本会に「研究発表優秀賞選考委員会」を設ける。

2. 委員会は10名の委員で構成され、委員は委員長によって、正会員の中から指名され、理事会で承認を受けた後に、会長がこれを委嘱する。ただし、委員のうち、2名以上は理事とする。

上記「2名以上は理事とする」の規定は、当委員会委員には若手が起用されることが多く、理事2名の確保が難しいため、削除の提案があり承認された。

## (4) 本会の目的を達成するために必要な事業

### 【1】庶務報告 (中村庶務幹事・理事)

1) 2018年度幹事会、理事会開催、調整、監査立ち合い

(議題作成、議事録作成、総会招集通知資料作成、発送、総会議事録作成、第2回理事会会場準備、TV会議準備)

第1回定例理事会開催: 2018年9月20日(木) 16:30-18:00 於: キャンパス構内 基盤教育1号館131教室

第1回幹事会開催: 2019年5月25日(土) 15:30-16:00 於: 東京大学理学部1号館西棟1階105室

第2回定例理事会開催: 2019年5月25日(土) 16:45-18:45 於: 東京大学理学部1号館西棟1階105室

第3回定例理事会開催: 2019年8月29日(木) 13:00-15:00 於: 東北大学理学部理学合同A棟402室 日本鉱物科学会事務局

一般社団法人日本鉱物科学会監査立ち合い: 2019年8月29日(月) 9:30-11:30 於: 日本鉱物科学会事務局

平成29年度定時総会: 2018年9月20日(木) 9:00-10:10 於: 山形大学小白川キャンパス基盤教育2号館221教室

2018年度定時総会: 2019年9月21日(土) 8:45-10:10 於: 九州大学伊都キャンパス イーストゾーン大講義室

2) 連合への各種対応: 2020年JpGU大会プログラム委員選出(正) 門馬綱一、(副) 西原 遊

3) 後援、共催、協賛の承諾

4) 会員への連絡、事務局の管理

5) 表彰に関する件: 第10回2018年度日本学術振興会「育志賞」受賞候補者推薦 候補者推薦なし

6) 令和2年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞、若手科学者賞および研究支援賞受賞候補者の-学会内-推薦なし

7) 一般社団法人定時社員総会「招集通知」の電磁的方法(メール等)採用への同意お願いのアンケート2019/07/23実施締切2019/08/28

8) 一社)日本鉱物科学会2018年度定時総会(2019/09/21開催)の事前お知らせ

9) 理事会開催準備、連合への対応、後援・共催・協賛対応、会員への連絡、事務局管理など。

10) モンゴル資源地質学会との協定調印式を総会中に実施予定

11) 2018年度 役員 各委員会委員報告

<理事(22名)>

会長(代表理事): 榎並正樹, 副会長(代表理事): 宮脇律郎

理事: 安東淳一, 阿部なつ江, 井上 徹, 大藤弘明, 大和田正明, 鍵 裕之, 川本竜彦, 河上哲生, 黒澤正紀, 辻森 樹,

土屋範芳, 富岡尚敬, 中村美千彦, 永井隆哉, 永島真理子, 長瀬敏郎, 伴 雅雄, 森下知晃, 坂本尚義, 吉朝 朗

監事: 平島崇男

<幹事会>

会長: 榎並正樹, 副会長: 宮脇律郎, 庶務幹事: 中村 美千彦(理事), 会員幹事: 河上哲生(理事), 会計幹事: 栗林貴弘, 行事幹事:

磯部博志, 和文誌編集幹事: 長瀬敏郎(理事), 英文誌編集幹事: 吉朝 朗(理事), 渉外幹事: 森下知晃(理事), 広報幹事: 大藤弘明(理

事), Elements: 興野 純, 特務幹事(細則等検討担当): 大和田正明(理事), 特務幹事(会員増対策担当): 佐藤 努, 地球惑星科学

連合2019年度学会選出プログラム委員: 齊藤 哲(正)・ 門馬綱一(副), 地惑連合連絡担当: 阿部なつ江(理事), 三鉱連絡委員:

中村美千彦, 磯部博志

<行事委員会>

委員長: 磯部博志行事幹事, 副委員長: 片山 郁夫, 池田 剛(2019年LOC委員)

委 員: 湯口貴史, 寺崎 英紀, 鍵 裕之

<岩石鉱物科学編集委員会>

委員長: 長瀬敏郎 幹事 副委員長: 高澤栄一

委 員: 阿部なつ江, 荒川洋二, 上原誠一郎, 遠藤俊祐, 大藤弘明, 掛川武, 木村純一, 興野 純, 久保友明, 栗谷 豪, 栗林貴弘,

小暮敏博, 近藤 忠, 柴 正敏, 下林典正, 土谷信高, 中井 泉, 中村美千彦, 永島真理子, 西戸裕嗣, 野口高明, 濱田麻希,

林信太郎, 伴 雅雄, 坂野靖行, 平島崇男, 藤縄明彦, 星出隆志, 牧野州明, 三宅 亮, 宮原正明, 門馬綱一, 坂本尚義,

吉朝 朗

<JMPS編集委員会>

委員長: 吉朝 朗 幹事 副委員長: M. Satish-Kumar, 永井隆哉

委 員: 伴 雅雄, 榎並正樹, 平島崇男, 市山祐二, 井上 徹, 加藤丈典, 河野元治, 木村純一, 小木曾哲, 栗林貴弘, 興野 純,

松枝大治, 三河内岳, 門馬綱一, 中村美千彦, 小畑正明, 大谷栄治, 奥寺浩樹, 大和田正明, 佐藤努, 佐脇貴幸, 篠田圭司,

下林典正, 杉山和正, 角替敏昭, 宇都宮聡Jung Ho Ahn, Richard J. Arculus, D. Chandrasekharan, Ming Chen, Moonsup Cho,

Alexander Khanchuk, Anhuai Lu, Joseph R. Smyth

< 渉外委員会 >

委員長：森下知晃

委員：栗谷豪(火山), 辻森 樹 (地質), 井上 徹 (高压), 永嶌真理子 (鉱物), 宇都宮聡 (環境)

< 広報委員会 >

委員長：大藤弘明

委員：糺谷 浩, 齊藤 哲, 石橋秀巳, 浜田麻希, 中村美千彦 (庶務幹事)

< Elements 委員会 >

委員長：興野 純, 副委員長：森下知晃

委員：片山郁夫, 宇都宮 聡, 井上 徹, 鍵 裕之, 寺崎英紀, 橘 吾省, 横山 正, 瀬戸雄介, 中野伸彦, 奥村 聡, 門馬綱一 (サイエンスボード)

Society News Editor: 興野 純

Executive Committee Member: 榎並正樹会長

中村美千彦 (庶務), 長瀬敏郎 (GKK), 吉朝 朗 (JMPS), 磯部博志 (行事), 森下知晃(渉外), 大藤弘明(広報) (学会役職指定委員)

< 将来企画委員会 >

委員長：宮脇律郎 (副会長) 副委員長：森下知晃

委員：阿部なつ江, 井上 徹, 大藤弘明, 鍵 裕之, 黒澤正紀, 中村美千彦, 永井隆哉, 永嶌真理子, オブザーバー：榎並正樹(会長)

< 細則等検討委員会 >

委員長：大和田正明 (細則等検討特務幹事)

委員：永井隆哉, 角替敏昭, 川本竜彦, 黒澤正紀

< 新鉱物・命名・分類委員会 >

委員長：門馬綱一

委員：上原誠一郎, 小林祥一, 清水正明, 浜根大輔, 坂野靖行, 豊 遙秋, 松原 聡, 宮脇律郎

< 教育普及委員会 >

委員長：林信太郎 委員：貴治康夫, 宮嶋 敏, 川手新一, 長瀬敏郎

< 博物館委員会 >

委員長：坂野靖行 委員：宮脇律郎, 長瀬敏郎, 森 康

< 日本鉱物科学会賞選考委員会 >

委員長：大和田正明, 副委員長：大藤弘明

委員：井上 徹, 鍵 裕之, 川本竜彦, 小暮敏博, 佐藤 努, 中村美千彦, 平島崇男, 宮脇律郎, (会長) 榎並正樹

< 渡邊萬次郎賞選考委員会 >

委員長：下林典正, 副委員長：小暮敏博

委員：(1期目継続委員)：土山 明, 長瀬敏郎, 吉朝 朗

(2期目委員)：大和田正明, 平島崇男, 宮脇律郎

< 日本鉱物科学会論文賞選考委員会 >

委員長：河上哲生, 副委員長：井上 徹

委員：(1期目継続委員)：安東淳一, 永嶌真理子, 森下知晃, 吉朝 朗

(2期目委員)：榎並正樹, 川本竜彦, 高澤栄一, 三河内 岳

< 日本鉱物科学会研究奨励賞選考委員会 >

委員長：奥村 聡, 副委員長：永嶌真理子

委員：(1期目継続委員)：阿部なつ江, 安東淳一, 黒澤正紀, 富岡尚敬

(2期目委員)：大藤弘明, 河上哲生, 森下知晃, 門馬綱一

< 日本鉱物科学会応用鉱物科学賞選考委員会 >

委員長：門馬綱一 副委員長：大藤弘明

委員：(1期目継続委員)：鍵 裕之, 黒澤正紀, 杉山和正, 永井隆哉

(2期目委員)：佐藤 努, 長瀬敏郎, 宮脇律郎, 吉朝 朗

< 櫻井賞選考委員会 >

委員長：松原 聡

委員：中井 泉, 清水正明, 宮脇律郎, 坂野靖行, 宮島 宏

< 研究発表優秀賞選考委員会 (2019年5月25日第2回理事会承認) >

委員長：越後拓也 副委員長：新名良介

委員：(1期目継続委員)：新名良介, 亀井淳志, 森下知晃, 石橋秀巳, 瀬戸雄介

(2期目委員)：越後拓也, 境 毅, 辻 森樹, 長瀬敏郎, 興野 純

< 2019年年会運営委員会 >

委員長：小山内康人

委員：池田 剛(責任者), 桑原義博, 仙田量子, 中野伸彦, 足立達朗, 寅丸淳志, 久保友明, 上原誠一郎, 宮本知治, 宇都宮聡, 渡邊公一郎, 野口高明

磯部博志行事委員長, 片山郁夫副行事委員長, 池田剛副委員長(2019LOC委員)

< 2019年5月25日第2回理事会にて、年会での継続的な国石「ひすい」の普及講演会実施の件(榎並会長)について提案がなされた。 >

国石選定事業の一貫として昨年山形で開催した「ひすい」に関する一般普及講演は、山形大学LOCのご協力のお陰もあり大変好評であった。今後、国石「ひすい」を一般にも広めるためにも、学会としてのアウトリーチの一つとして毎年年会で継続して「ひすい」に関する一般普及講演を行いたいと考える。今年の九州大学、来年の東北大学でも予定はしているの、正式に学会で主催して進めていくことについてご審議お願いします。承認された。

**【2】 将来企画委員会報告 宮脇委員長・副会長)**

1. 第21回2019年5月25日13:45-14:35に将来企画委員会を開催し以下諮問案件について審議した事の報告

1) 会計問題WG(仮称)委員の選任(継続審議)

2018年9月3日平成29年度第3回定例理事会で小山内前監事から監査の結果監事意見があり、会費の問題に関するWGを将来企画委員会を中心に2018年度中に立ち上げることが承認された。2018年9月20日2018年度第1回定例理事会にて委員長は井上徹(理事)に決定したが、委員は今後将来企画委員会で選任することになった。将来企画委員会委員を中心に立ち上げることとなった。



2) 科研費審査制度の大幅変更に関して(継続審議)

科研費審査制度の大幅変更にもなう影響

制度変更にもなない、旧区分岩鉱系の採択率が大きく変化したのではないかの情報もあり、影響と対策を議論するための基礎となる情報(採択率が上がった下がったなどを含め、些細なことでも結構)・科研費の審査制度の大幅変更に対応して影響があったかデータ収集を行なう事になった。審議の結果、年会で説明会を開催することを検討することとなった。

3) 会員数増のための学会としての対応(継続審議)

4) その他

2. 第22回2019年将来企画委員会開催予定

日時: 2019年9月19日(木)15:00-16:00 会場: 九州大学伊都キャンパス

議題は下記の通り。

「普及講演会」と「科研費説明会」の準備・開催の運営方法(行事委員会、LOC、その他の分担)について審議し、直後の第1回定例理事会に諮りたい。

<2018年9月20日の第1回理事会にて「岩石・鉱物の日」制定の件(宮脇副会長)の提案がなされた。>

2018年5月19日の第2回理事会にて、国石選定事業の一貫として、鉱物・岩石の日の選定を行いたいと土山会長からの提案があり具体的には、WGを作り、決め方も含めて議論することが承認された。

<理由> Webで調べたところ石の日はあるが、鉱物や岩石の日というのは見当たらない。国石の定着だけでなく、鉱物や岩石をもっと知ってもらうためにも、鉱物・岩石の日の選定をおこないたい。

その後、9月3日の第3回理事会では、「国石」の制定と同様に、広く意見をきいてもう少し時間をかけていくことでお願いすることになり、従って、第3回理事会ではWGの選出も見合わせたので、第1回理事会で継続審議することとなった。

WGを立ち上げて、学会の活動を公開しながら制定していきたいということで、現時点で承認された。

【3】特務幹事(会員増対策担当) 報告(佐藤特務幹事・理事)

1. 2018年9月20日(木)第1回理事会報告

<長期的実施事項>

1) 会員増に向け、情報収集と議論を行い、下記の提案をする。以下、アンケート実施も含めて、今後も努力を進めてゆく。

- ・中堅会員に対して、関連学会との共通あるいは深く係のテーマのシンポジウム等を頻繁に行い、会員増を図る。
- ・若手会員に対して、学生会員の卒業後の定着に向けて、学生会員並みの会費で、アカデミアではなく情報収集を中心とし、サービスを落とした準会員等の会員制度も考えられる
- ・高校教員や高校生の積極的な参加を図る。会費の配慮が必要。
- ・鉱物や岩石のマニアの参加について、議論した。前向きな意見とそうでない意見があった。

2) Elementsの配布の差別化を図り、会計上の余裕を調査した結果、会員の差別化に前向きな意見があった。以上今年度中に継続して審議していく。

2. 2019年5月25日(土)第2回理事会報告

<会員区分等検討WG委員会の活動報告>

1) 昨秋より吉朝委員長の後任として佐藤(北大)特務幹事(会員増対策担当)が委員長就任。

2) 昨年度は、短期の会員数減の応急措置として、以下の事が理事会で承認され、会員会費規定が改正されている。

「会員会費規定」の(年会費)第5条第2項の改正

--シニア会員のElements購読の有無によって、会費を分ける件--

シニア会員は、申し出によって、本規定第3条(1)の会誌等に含まれているElements冊子体の受領およびその電子ジャーナルアクセス権の付与を辞退することができる。

その場合のシニア会員の会費は、第5条(1)電子版及び冊子版を購読するシニア会員は6,000円、(2)電子版のみを購読するシニア会員は5,000円となる。

3) 本年度は、長期の会員数増あるいは会員数維持のための方策を考え、理事会に提案することを主な活動として進める。

まずは、会員へのアンケートを実施し、現会員の意向をもとに会員数増あるいは会員数維持のための方策を提案する。

4) WGの話し合いで出た意見は次の通り。

- ・中堅会員に対して、関連学会との共通あるいは深く係のテーマのシンポジウム等を頻繁に行い、会員増を図る。
- ・若手会員に対して、学生会員の卒業後の定着に向けて、学生会員並みの会費で、アカデミアではなく情報収集を中心とし、サービスを落とした準会員等の会員制度も考えられる
- ・高校教員や高校生、鉱物や岩石のマニアの積極的な参加を図る。会費の配慮が必要。
- ・Elements配布の差別化を図り、会費の低減を模索する。

5) 以上を踏まえ、次ページにあるようなアンケートをGoogle Formを利用したwebアンケートとして実施したい。なお、このアンケート案は、WGの議論を踏まえたものではなく、委員長の試案であることにご留意いただきたい。

日本鉱物科学会の理事会は、本学会の会員増あるいは会員数維持のための方策を考えて事業を進めていこうと考えています。その方策の策定のために、会員の皆様に以下のようなアンケートを実施する事になりました。以下の問いにお答えいただくには、特に会計上の前提条件が必要だと思しますので、会計上の前提は、「現在は赤字でもなく黒字でもない状況で、もし会員増あるいは会員数維持のための方策にさらなる支出が必要な場合は会費を値上げする必要がある」という前提でお答えいただきたいと存じます。ご協力をお願いいたします。

Q1 本学会の会員増あるいは会員数維持のための方策を考えて事業を進めていく事に関してあなたは、

1. 大いに賛成    2. 賛成    3. どちらかという賛成    4. どちらかという反対  
5. 反対    6. 絶対反対    7. その他( )

Q1-1 Q1の質問で4-6とお答えになった方に質問します。どのような理由で反対なのですか?

Q2 会員増あるいは会員数維持のための一つの方策として、鉱物・岩石に興味がある高校教員や高校生、いわゆるマニアの方々にも積極的に会員になってもらうことも必要だと考えていますが、あなたは、

1. 大いに賛成    2. 賛成    3. どちらかという賛成    4. どちらかという反対  
5. 反対    6. 絶対反対    7. その他( )

Q2-1 Q1の質問で1-3とお答えになった方に質問します。高校教員や高校生、いわゆるマニアの方々に会員になってもらう場合、会費やサービスはどうすればよいと思いませんか?

1. すべて正会員と同じにする    2. 会費は安くしてもサービスは正会員と同じにする。  
3. 会費は安くして、サービスも限る。    4. その他( )

Q2-2 Q2-1の質問で3とお答えになった方に質問します。どのようなサービスに限定するのが良いと思いませんか?

Q2 - 3 Q2の質問で4-6とお答えになった方に質問します。どのような理由で反対なのですか？

Q3 会員増あるいは会員数維持のための一つの方策として、鉱物利用している産業界の方々にも積極的に入会を勧めることが重要だと思いますが、あなたは、

1. 大いに賛成      2. 賛成      3. どちらかという賛成      4. どちらかという反対  
5. 反対      6. 絶対反対      7. その他( )

Q3 - 1 Q3の質問で1-3とお答えになった方に質問します。産業界の方々積極的に入会していただくために、学会がどのような方策を取っていけばよいと思いますか？

Q3 - 2 Q3の質問で4-6とお答えになった方に質問します。どのような理由で反対なのですか？

Q4 上記の2つの会員増あるいは会員数維持のための方策以外により方策がある方は、以下に記述してください。

### 3. 2019年8月29日第3回理事会報告

- 2019年8月1日からの会計年度会費徴収から適用されたElements不要のシニア会員希望者は30人となった。  
毎年、年度切り替え前に希望者を募る予定。
- 会員からのご意見など、情報収集のためアンケートを2019年7月23日から8月28日まで実施した。200人余りの会員から貴重なご意見をいただいている。集計結果は9月21日の第1回理事会にて行う。

## 【4】地惑連合報告（阿部連絡担当委員）

### 【1】 2019年5月25日第2回定例理事会での報告内容

2ヶ月に1度の理事会（直近は5月10日）についての報告

- PEPS+EPS出版:共同で提案し、出版料研究費が採択された
- 寄付金(3000円)のお願い。5年間平均100人/年を続けられ、税の減免対象となるため。
- 国際対応  
(ア)今後の大会のあり方、英語セッション数（国際化を進める）50%以上を目指す。  
(イ)台湾とのMOUについて中国（現在の海外からの大会参加者数でトップ）との関係などを考慮しつつ進める。  
(ウ)海外からJpGU大会へ参加かつ入国ビザが必要な人に対し、学会がサポートしているが、不正な申請が数多く見られることから、今後対策を検討。
- GeoethicsについてTFで議論。AGU-EGU-JpGU共同宣言（科学者としての行動規範等）を2020大会に向けて作成していく。研究不正、ハラスメント、ジェンダーバランスなど、国際化（AGU-EGU）を進める前に力を入れて取り組んでいく。
- キャリアパス：博士取得後のポスト数減少対策（約1/2しかポストがない）。
- JpGU2019大会関連  
(ア)入場レジストレーションには大会参加バーコードが必要。当日受付は基本的に行わない。各自のPC等から参加登録することになる（JpGU会員ID番号を入力、情報セキュリティ上、大会側はIDを検索できない）。  
(イ)大会中の災害発生等、「緊急時対応マニュアル」を作成：代議員150名にメールで配布とともに、大会受付、セッション会場に印刷物を常備。大会Web上に、緊急連絡先と避難経路図を掲載予定。  
重要な点は、緊急時避難経路が、「火災発生時」と「その他（地震・津波など）」で別であること。火災発生時は、会場の主な通路の防火扉が閉まるため、避難経路が小さなドアなどに限られる。コンピーナーや座長は必ず避難経路を確認していただきたい。

### 【2】 2019年8月29日第3回定例理事会での報告内容

<連合大会について>

- JpGU将来ビジョンTFを立ち上げ、あり方について議論を始める（9月から）。
- 2019年大会のアンケートにご協力を。会場で配られる飲み物(ビール、コーヒー、リポDなど)についても、是非ご意見を投稿して欲しい。  
日本語：<https://business.form-mailer.jp/fms/05361a8e88070>  
英語：<https://business.form-mailer.jp/fms/9fca16e2105784>
- ハイライト論文、プレスリリースの効果など、今後検証する。
- フットサル行事が盛況だったことから、来年は他にミニイベントを公募する予定（例：ジョギング50人くらいまでなど）。
- 固定セッション(英語セッション)提案について

<2019年8月2日付の固体地球セクション執行部からの手紙>

日本鉱物科学会会長 榎並正樹先生

本年9月初めより、2020年JpGU-AGUジョイントミーティングのセッション提案の受付が開始されます。貴学会におかれましては、このジョイントミーティングへのご協力をお願い申し上げます。

例年、JpGUにおきましては、貴学会から定番のセッションをご提案いただき、連合大会の成功にご貢献いただいております。深く感謝いたしております。2020年のAGUとの第二回ジョイントミーティングは、貴学会をはじめとします日本の地球惑星科学の成果を国際的に発信するまたとない機会であると考えております。つきましては、貴学会からご提案いただきますセッションにつきまして、可能な限り英語でのセッションとしてご提案いただきたくお願い申し上げます。貴学会に対応するAGU側のセクションに対しまして、もし事前に連絡調整等が必要な場合には、この固体地球科学セクションの執行部が、連絡窓口としてお手伝いさせていただきますので、ご検討をお願いいたしますと存じます。

貴学会におかれましては、AGUとの第二回ジョイントミーティングの成功に向けて、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

日本地球惑星科学固体地球セクション執行部 大谷栄治・田中聡・道林克禎

<その他>

- 2年に一度の代議員、セクションプレジデント、理事選挙。9/12までが代議員立候補受付。そこから1月まで一連の選挙、立候補受付などの行事が続く。

## 【5】 学術会議報告（大谷学術会議連携会員）

### 1. 2018年9月20日第1回理事会報告

2018年9月19日(水) 17:00-18:00階催委員会 山形大学小白川キャンパス基盤教育1号館131教室

IMA総会の報告、今後のIMA対応、地球科学の夢ロードマップ、大型研究計画について、鉱物科学における人材育成

### 2. 2019年5月25日第2回理事会報告

日時 2019年5月25日(土) 14:35-15:25 開催IMA小委員会 報告 場所 東大理学部1号館西棟1階 105号室

- IMA Council, 各コミッションとWGの現状(WGの再構築の現状)今後の対応について。日本からも理事を出した方が良い。Councilのメンバーとして、大藤教授(GRC)を推薦した。SecretaryのHans-Peter Scherffに連絡

CGMのメンバーの交代：宮田博士から阿以アヒマデイ博士への変更をIMA構成学会の代表者榎並会長と連名でCGMの委員長に連絡  
IMAの総会：Lyon France, 2022

CMMN(命名・記載コミッション)新体制を：宮脇委員長(報告お願いします.)

CPM:コミッション・井上副委員長

CM 坂野靖行

IMA2018メルボルン大会期間中に開催されたIMA博物館委員会(IMA-CM)に長瀬委員が参加した。投票により新委員長(Dr Mike Rumsey)選出及びM&M9開催国(ブルガリア)の承認が行われた。

2019年4月にIMA-CMより連絡があり、今後はメールを用いた情報共有を進める方針が示された。連絡内容の概要は以下の通りです。

\* IMA-CMのwebsite(www.ima-cm.com)が刷新された。

\*M&M9 conferenceはBulgaria, Sofiaで2020.7.5~7.7に開催される。

\*年4回(4月, 7月, 10月, 1月)IMA-CM mail updateがCM memberに送信される。

\*多くのCM memberが遠方への会議に出席することが困難である状況を考慮し今後はregular mail contact and discussionにより重点を置く。

\*Type catalogue (CTMS)が2018年11月にre-organizeされ、CM web siteに掲載された。今後はCNMNCの協力によりtype specimen情報がCM側に提供され、type catalogueのupdateがregular basisで可能になる。

\*今後のM&Mの開催方針案“The board have been discussing that in all future years where M&M conference is in Europe for it to be held the week prior to the EMC conference, thereby allowing maximum opportunity to have good numbers at the M&M conferences and quorum at just a single IMA-CM meeting.”が述べられ、CMの多くのメンバーが参加できるようにするためには、今後のM&Mはヨーロッパで開催(the EMC conferenceの前週で開催)される案が議論されていることが紹介された。

## 2) 24期学術会議の活動

・大型研究課題の審査：

## 3) 地球科学における大型研究の現状とヒヤリングについて

・大型研究の大規模改訂(2020年度)のヒヤリング・参加者審査が5/27, 9:00-17:00に行われる。皆さんの参加をお願いします。

・鉱物科学に関連する大型研究課題の現状の紹介(入船教授・鍵教授)。

## 4) 鉱物科学における人材育成：

西山委員(教科書)：新しい地球惑星科学 西山・吉田共編著 培風館219年3月

## 5) その他：

地球科学における不正問題：研究倫理(京都大学の対応)

## 3. 2019年8月29日第3回定例理事会での報告内容

### 1) 大型研究計画の評価について、

マスタープラン2020の策定に向けて：

5月の連合大会のユニオンセッションにおいて、Public評価、同時に学術会議の科学者委員会 研究計画・研究資金検討分科会の下での地球惑星科学分野の大型研究計画評価小分科会にて審査(11名の委員)6月17日に順位付け順位：ミュオグラフィ、広域観測(リアルタイム観測)、革新的質量分析技術開発、戦略的火星探査、極域科学、CASESAR(彗星アストロバイオロジー探査サンプルリターン)

今後、科学者委員会 研究計画・研究資金検討分科会において、プレゼン課題を選定、プレゼンと評価

### 2) 夢ロードマップの公開：改訂版(最終版)

### 3) IMA小委員会関連

・CGMのメンバーの交代：宮田博士から阿依アヒマデイ博士への変更をCGMの委員長に連絡し、承諾を得た。

・CNMNC(新鉱物命名・分類コミッション)：宮脇律郎博士がコミッションチェアマンになった。門馬綱一博士が新たに日本を代表するコミッションメンバーに加わった。

・M&M9 conferenceはBulgaria, Sofiaで2020.7.5~7.7に開催される IMA関係ビジネス；2020年EMUにおいて、行われる。

・Councilのメンバーとして、大藤教授(GRC)を推薦した。SecretaryのHans-Peter Scherflに連絡

・IMAビジネス会合 EMC(European Mineralogical Conference), Cracow Poland 2020 : <https://emc2020.ptmin.eu> September, 6-10, 2020.

・IMAの総会：Lyon France, 2022 : IMA

・EMC2020においてCPM(commission of physics of Minerals)-IMAのセッションを提案：MINERAL PHYSICS AND PLANETOLOGY: A JOURNEY ACROSS THE universe. Conveners: CONVENERS P. COMODI (ITALY), C. MCCAMMON (GERMANY), E. OHTANI (JAPAN)

## 【6】教育普及委員会報告(林信太郎委員長)

### 2019年5月25日第2回定例理事会での報告内容

#### < 鉱物学会教育普及委員会今後の活動 >

#### 1) 教育普及委員会が中心になって行うアウトリーチ

教育普及委員会の目的の一つである、子ども向けのアウトリーチの活動を進める。

・アウトリーチ活動を行い、子どもに対する鉱物科学およびその関連分野の成果の普及を行う。SSH(スーパーサイエンスハイスクール)などの高大連携などを活用する。

・アウトリーチの実践を通じてアウトリーチの方法に関する知見を得て、鉱物学会会員に普及する。

・2019年度は委員が鉱物学会会員として試行的なアウトリーチ活動を行い、その成果を取りまとめる。

・2020年度は秋の年會に合わせて子ども向けのアウトリーチ活動を行う。行事委員会の主催する講演会とリンクさせる。2019年9月の総会で予算を申請する。行事委員会との調整を行う。(チラシ印刷費、ポスター印刷費、おみやげ代など)

・その成果をもとに科学研究費の公開講座に応募し、翌年度からは本格的なアウトリーチの実践活動を行う。

・子ども向けアウトリーチ活動の内容は、「鉱物と遊ぼう!」(岩塩割り、砂鉄集め、黒雲母剥がしなど)、「鉱物お宝鑑定団」、「鉱物クイズ」、子ども向け講演会「はやぶさ2で何がわかるの?」などがある。

一般普及講演会と子供向けイベントをセットで科研費の公開講座を申し込む

・この他に科学の祭典などへの出店も考える。7月27日28日に偵察し、どのような準備が必要か考える。

#### 2) 教育普及委員会の下にワーキンググループを置き、教育普及に関わる関係者を組織化する。

##### < 現在の委員会体制 >

委員長：林信太郎 委員：貴治康夫、宮嶋 敏、川手新一、長瀬敏郎

規定で委員の数は5名と定められている。

・現委員会の下にアウトリーチに関するワーキンググループを設置し、以下のような鉱物学会のメンバーを組織化する。

学校教員、ジオパークの専門員・ガイド、博物館関係者など

鉱物に詳しい人、子ども向けに話すのが得意な方、若手を歓迎

- 3) アウトリーチ活動にあたっての学会からの支援
- ・数年前の科学技術週間で作成した一家に一枚の鉱物のポスター（残部はあるのかどうか調査、場合によっては増刷）
  - ・鉱物や岩石の図柄のクリアファイル
  - ・おみやげの鉱物（ガーネット入りの砂など）

<参考>

<教育普及委員会内規の本委員会の目的>

- 「2. 教育普及委員会は、初等中等教育や大学基礎教育における鉱物科学およびその関連分野の成果の普及と後継者の育成、これらの分野の教育に関わる教職員への支援、博物館や出版・報道機関などを通じての一般社会へのこれらの分野の成果の普及を目的として活動する。」2. 2018年5月19日第2回定例理事会での報告内容
- ・今期もJpGU教育検討委員会にて他学会の初等・中等教育関連委員とともに活動した。具体的には、1) 上記委員会内の小委員会で作成した高等学校「地学基礎」のカリキュラム具体案を、検討資料として文科省に提出、2) 検討中の高等学校学習指導要領案に対して、パブリックコメントの形で意見を提出。(※これは理事会資料に入れなくても良いのですが、現在版の高校「地学基礎」の履修率は約30%ということです。ご参考までに)
  - ・JpGU大会では、20日(日)午後教育検討委員会主催のセッション「G-05 小・中・高校、大学の地球惑星科学教育」が、また午前委員会が関係するセッション「O-01これからの高校における地球惑星科学教育」が開催される。ぜひご参加ください。

#### 【7】博物館委員会報告（坂野委員長）

2019年5月25日第2回定例理事会での報告内容

IMA2018メルボルン大会期間中に開催されたIMA博物館委員会(IMA-CM)に長瀬委員が参加し、投票により新委員長選出及びM&M9開催国(ブルガリア)の承認が行われた。2019年4月にIMA-CMより連絡があり、情報共有のため重要事項を取り纏め各委員へ提供した。その概要は以下の通りです；1) CM Web siteの刷新、2) 2020年7月開催のM&M9の情報、3) IMA-CMより年4回の定期連絡メールの発信、4) 今後のM&Mの開催方針の議論

#### 【8】研究部会継続申請と報告：研究部会「岩石 - 水相互作用」

2018年9月20日の理事会で、研究部会の件：研究部会「岩石 - 水相互作用」の継続設置について岩石 - 水相互作用研究部会幹事土屋範芳（代表者）から継続申請書の提出があった。承認された。

<2018年9月20日第1回定例理事会での申請、報告内容>

運営細則により、研究部会は毎年代表者氏名・連絡先・活動内容・所属する研究部会員の氏名等必要事項を理事会に報告する。ことと規定されていますので、以下に報告します。なお、氏名棟は第4号議案に記載しましたのでここでは省略します。

代表者氏名：土屋範芳，連絡先 tsuchiya@mail.kankyotohoku.ac.jp

活動内容：年会におけるセッション企画，情報交換

活動実績：鉱物科学会におけるスペシャルセッションの開催

セッション開催趣旨：岩石 - 水相互作用」に関わる分野横断的な研究発表，情報交換を推進すべく、「みず」をキーマテリアルにして，地殻流体のキャラクタリゼーション，変成岩，火成岩との反応プロセス，熱水変質，鉱床，熱水実験，さらに流体の発生や移動プロセス，地殻内での流体の存在形態など基礎理論と実験に関する講演を広く募集する。研究の方法も，野外観察，実験，数値計算，モデリングなど多様な発表を期待し，地球プロセスにおける「みず」の役割を学際的に検討する。

28年度年会（金沢）口頭発表12件，ポスター発表10件

29年度年会（愛媛）口頭発表12件，ポスター発表5件

30年度大会（山形）口頭発表11件，ポスター発表4件

研究部会設置期間：

第一期平成19年10月1日～平成22年9月30日

第二期平成22年10月1日～平成25年9月30日

第三期平成25年10月1日～平成28年9月30日

第四期平成28年10月1日～平成30年9月30日。2018年5月19日第2回定例理事会での報告内容

世話役 土屋範芳，奥山康子，藤本光一郎，河上哲生

<報告内容>

日本鉱物科学会2017年年会（愛媛大学）でのスペシャル セッション「岩石 - 水相互作用」Water Rock Interaction開催報告

<趣旨と概要> 本トピックセッションでは、「岩石 - 水相互作用」に関わる分野横断的な研究発表，情報交換を推進すべく、「みず」をキーマテリアルにして，地殻流体のキャラクタリゼーション，変成岩，火成岩との反応プロセス，熱水変質，鉱床，熱水実験，さらに流体の発生や移動プロセス，地殻内での流体の存在形態など基礎理論と実験に関する講演を広く募集する。研究の方法も，野外観察，実験，数値計算，モデリングなど多様な発表を期待し，地球プロセスにおける「みず」の役割を学際的に検討する。あわせて，除染の鉱物科学，放射性廃棄物地層処分，二酸化炭素の地層隔離，島弧システムと地熱エネルギーなどの地下利用に関する講演も募集する。

#### 【9】会員報告（佐藤会員幹事・理事）

会員減少について特務幹事や関係者とWGを立ち上げて審議しており，継続していきます。

過去会員推移（平成19年統合から2019年8月29日まで）

過去会員推移													2019年8月29日まで	
	2007年 9月20日	2008年 9月21日	2009年 9月9日	2010年 9月23日	2011年 9月8日	2012年 9月19日	2013年 9月11日	2014年 9月18日	2015年 9月25日	2016年 9月24日	2017年 8月12日	2017年 9月12日	2018年 9月3日	2019年 8月29日
一般正会員(R)	892	886	865	846	840	702	686	672	652	628	598	602	583	565
シニア会員(RS)						139	142	148	154	171	175	175	178	175
学生正会員(S)	78	76	78	68	88	103	94	87	88	83	81	83	84	90
永年会員(L)	39	36	33	37	39	37	40	41	36	34	35	35	35	36
名誉会員(H)	11	9	9	7	7	7	6	6	13	13	17	17	16	14
会員合計	1020	1009	985	958	974	988	968	954	943	929	906	912	896	880

2018年度の変動-入会50+復活3 - 退会者等69 (退会50+物故6+不明13) = - 16



## 2) 「宝石切手」の発行の嘆願書の件

2019年5月25日の理事会にて、「宝石切手」の発行に向けて、宝石学会日本、日本ジュエリー協会、日本宝石協会と連名にて発行の嘆願書を提出したいという提案を受け入れるかどうかの審議がなされた。承認されれば担当は渉外幹事をお願いします。提案の受け入れが承認された。

## 3) 日本地質学会提案「大規模研究計画に関するマスタープラン2020」への日本鉱物科学会賛同、共同提案の是非

一般社団法人日本地質学会から、標記の依頼があったことについて、現段階では賛同することの承認がなされた

## 4) International Symposium on Water-Rock Interaction (WRI) WRI-17東北大学招致協力の件 土屋理事（代理：宮脇理事）

2019年5月25日の第2回理事会にて、標記の件が提案された。もし万が一 招致されたら、ご協力をいただく必要が出てくるかもしれませんがとのことで、協力依頼があった。承認された。

2019年8月29日の第3回理事会にて、招致ができたことの報告があり、今後、日本の現地委員会、仙台現地委員会などの組織化が必要になり、鉱物科学会の協力が不可欠ですので、よろしくお願いたしますとのことでした。

## ・ 2019年度（一般社団法人第 期）事業計画書及び収支予算案などの件

### (1) 2019年度事業計画紹介 （榎並会長）

編集事業：岩石鉱物科学、Journal of Mineralogical and Petrological Sciencesの発行  
行事事業：2020年年会（東北大学）の開催と2019年度定時社員総会の開催、一般普及講演  
各賞の表彰事業  
その他本会の目的を達成するために必要な事業

### (2) 2019年度収支予算紹介 （16頁に掲載）（栗林会計幹事）

## ・ その他

## 決議事項

## ・ 第 1 号議案 2018年度（一般社団法人第 期）決算承認の件

（説明：栗林会計幹事， 監査報告：平島監事）

### 1. 2018年度（一般社団法人第 期）決算について(栗林会計幹事)

- (1)貸借対照表 (17頁)
- (2)正味財産増減計算書 (18-19頁)
- (3)財務諸表に対する注記 (19頁)
- (4)附属明細書 (19頁)

### 2. 監査報告(平島監事)

20頁の監査報告書の通り。

## 各賞授賞式（榎並会長）

### 【1】2018年度日本鉱物科学会賞表彰

第20回受賞者：野口 高明 会員

業績題目：原始太陽系における物質進化に関わる岩石鉱物学的研究

第21回受賞者：山崎大輔 会員

業績題目：構成物質のレオロジーに基づく核・マンツルのダイナミクスの研究とそのための高圧実験技術開発

### 【2】渡邊萬次郎賞表彰

第35回受賞者：青木義和 名誉会員

### 【3】2018年度日本鉱物科学会論文賞表彰

第20回受賞論文

Title: Mullite in a buchite from Asama volcano and its sub-micrometric core-rim texture with sillimanite. Journal of Mineralogical and Petrological Sciences, 113-4, 198-206, 2018.

Authors: Yohei IGAMI, Akira MIYAKE, Norimasa SHIMOBAYASHI

受賞者：伊神洋平会員，三宅 亮会員，下林典正会員

第21回受賞論文

Title: In situ observation, X-ray diffraction and Raman analyses of carbon minerals in ureilites: Origin and formation mechanisms of diamond in ureilites. Journal of Mineralogical and Petrological Sciences, 111-4, 252-269, 2016.

Authors: Yoshihiro NAKAMUTA, Fumio KITAJIMA, Kazuhiko SHIMADA

受賞者：中牟田義博会員

### 【4】2018年度日本鉱物科学会研究奨励賞表彰

第25回受賞者：吉村俊平 会員

研究対象：「火山噴火現象の実験的・理論的研究」

第26回受賞者：篠崎彩子 会員

研究対象：「地球深部・氷天体深部での炭素、水素、窒素関連物質の振る舞いの解明」

### 【5】2018年度JMPS学生論文賞受賞論文表彰

第7回受賞論文：Tomoya TAMURA, Ryo SUGAYA, Atsushi KYONO : Formation of Fe(III)-oxides on the magnetite surfaces in the low-temperature hydrothermal reaction

受賞者：田村知也 投稿時：筑波大博3

第8回受賞論文：Yumiko TSUBOKAWA, Masahiro ISHIKAWA, Tetsuo KAWAKAMI, Tomokazu HOKADA, M. SATISH-KUMAR, Noriyoshi TSUCHIYA, G.Eoffrey H. GRANTHAM: Pressure-temperature-time path of a metapelite from Mefjell, Sør Rondane Mountains, East Antarctica

受賞者：坪川 祐美子 投稿時：横国大博2

## モンゴル資源地質学会と一般社団法人日本鉱物科学会との学術交流協定調印式 Agreement on Academic Cooperation and Exchange between Mongolian Society of Economic Geologists and Japan Association of Mineralogical Sciences

モンゴル資源地質学会会長 Dr. M. Ochirbat

President of Mongolian Society of Economic Geologists (MonSEG) , Dr. M. Ochirbat

一般社団法人日本鉱物科学会会長 榎並 正樹

President of Japan Association of Mineralogical Sciences , Dr. Masaki Enami

一般社団法人日本鉱物科学会2019年度会計収支予算案		
2019年8月1日から2020年7月31日まで		
科目	H30予算案	2019予算案
<b>経常収益</b>		
会費収入	8,038,000	7,738,000
一般会員	4,860,000	4,700,000
シニア会員	1,300,000	1,100,000
学生会員	365,000	350,000
永年・名誉会員	23,000	18,000
購読会員	850,000	710,000
賛助会員	240,000	260,000
前年度分会費	400,000	600,000
出版物収入	2,000,000	2,000,000
和文誌（GKK）収入	250,000	250,000
英文誌（JMPS）収入	1,750,000	1,750,000
広告収入	40,000	40,000
年会収入	2,200,000	2,600,000
雑収入	70,000	90,000
<b>経常収益計</b>	12,348,000	12,468,000
<b>前年度繰越金</b>	5,216,569	3,860,398
<b>経常収入合計</b>	17,564,569	16,328,398
<b>特定資産前年度繰越金</b>	6,675,790	6,436,005
学会賞等刊行基金	3,476,982	3,477,006
学会賞・奨励賞・論文賞基金	1,147,741	967,116
渡邊萬次郎賞基金	10,948	92,574
国際学会・年会基金	2,040,119	1,899,309
<b>収入合計</b>	24,240,359	22,764,403
<b>経常費用</b>		
刊行費	4,342,400	4,350,000
GKK印刷本冊費	1,000,000	1,000,000
JMPS印刷本冊費	1,900,000	1,900,000
GKKその他印刷費	200,000	200,000
JMPSその他印刷費	500,000	500,000
通信運搬費	300,000	300,000
コピー機支払リース料	110,000	100,000
英文校閲費	300,000	300,000
J-Stage-EM利用料	32,400	50,000
集会費	2,310,000	2,380,000
年会開催費	2,200,000	2,300,000
会議費	110,000	80,000
学会賞副賞	347,000	272,000
鉱物学会賞記念品費	70,000	70,000
研究奨励賞記念品	60,000	40,000
論文賞記念品	10,000	10,000
受賞者懇親会費	40,000	40,000
受賞者参加費	12,000	12,000
渡邊萬次郎賞記念品	55,000	50,000
発表賞支援金	100,000	50,000
Elements購読会費	1,500,000	1,400,000
管理費	5,603,900	5,648,700
支払報酬料	399,600	350,000
租税公課	12,000	2,000
法人税、住民税及び事業税	77,300	77,700
給料手当	3,400,000	3,400,000
法定福利費	480,000	480,000
旅費交通費通勤手当	375,000	374,000
臨時雇賃金	150,000	200,000
旅費交通費出張費	90,000	150,000
水道光熱費	20,000	20,000
地代家賃	65,000	70,000
通信費電話回線料	120,000	120,000
通信費郵送料など	50,000	100,000
送金手数料	110,000	70,000
消耗品費PC関係	20,000	20,000
消耗品費コピー利用代	40,000	80,000
消耗品費その他	50,000	50,000
雑費	20,000	0
鉱物ポスター印刷費	40,000	0
支払寄付金（地学オリンピック）	50,000	50,000
YMO補助	35,000	35,000
<b>経常費用計</b>	14,103,300	14,050,700
<b>次年度繰越金合計</b>	10,137,059	8,713,703
	24,240,359	22,764,403



## (1)貸借対照表

<b>貸借対照表</b>			
令和 元年 7月31日現在			
一般社団法人日本鉱物科学会			(単位：円)
科 目	当年度	前年度	増 減
<b>資産の部</b>			
1. 流動資産			
現金預金	3,819,534	5,642,569	1,823,035
前払費用	432,864	0	432,864
流動資産合計	4,252,398	5,642,569	1,390,171
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
学会賞等刊行基金	3,477,006	3,476,982	24
学会賞・奨励賞・論文賞基金	967,116	1,147,741	180,625
渡邊萬次郎賞基金	92,574	10,948	81,626
国際学会・年会基金	1,899,309	2,040,119	140,810
特定資産合計	6,436,005	6,675,790	239,785
固定資産合計	6,436,005	6,675,790	239,785
資産合計	10,688,403	12,318,359	1,629,956
<b>負債の部</b>			
1. 流動負債			
前受会費	392,000	426,000	34,000
預り金	80,485	80,358	127
未払法人税等	77,700	77,300	400
流動負債合計	550,185	583,658	33,473
負債合計	550,185	583,658	33,473
<b>正味財産の部</b>			
1. 一般正味財産			
(うち特定資産への充当額)	(6,436,005)	(6,675,790)	(239,785)
正味財産合計	10,138,218	11,734,701	1,596,483
負債及び正味財産合計	10,688,403	12,318,359	1,629,956

## ( 2 ) 正味財産増減計算書

正味財産増減計算書			
平成30年 8月 1日から令和 元年 7月31日まで			
一般社団法人日本鉱物科学会			
			(単位：円)
科 目	当年度	前年度	増 減
一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
会費収入	7,774,724	8,622,112	847,388
一般会員	4,796,000	5,149,500	353,500
学生会員	352,000	339,000	13,000
シニア会員	1,161,000	1,242,000	81,000
永年・名誉会員	19,000	20,000	1,000
購読会員	716,764	745,212	28,448
賛助会員	260,000	260,000	0
前年度分会費	469,960	866,400	396,440
出版物収入	1,900,420	2,761,800	861,380
広告収入	50,000	30,000	20,000
年会収入	2,506,500	2,853,500	347,000
参加費	1,360,000	1,430,000	70,000
懇親会費	815,500	646,000	169,500
展示料収入	150,000	180,000	30,000
受取助成金	150,000	590,000	440,000
キャンセル料	6,000	7,500	1,500
その他収入	25,000	0	25,000
雑収入	185,018	87,437	97,581
著作権料収入	92,924	87,350	5,574
受取利息	94	87	7
雑収入	92,000	0	92,000
経常収益計	12,416,662	14,354,849	1,938,187
(2) 経常費用			
刊行費	4,154,414	5,036,947	882,533
印刷製本費	3,293,695	4,042,250	748,555
通信運搬費	432,542	490,063	57,521
支払リース料	111,456	111,456	0
英文校閲費	264,341	360,778	96,437
J-Stage-EM利用料	52,380	32,400	19,980
集会費	2,289,857	2,148,693	141,164
年会開催費	2,208,001	2,068,587	139,414
会議費	81,856	76,960	4,896
雑費	0	3,146	3,146
学会賞副賞	161,010	332,325	171,315
鉱物学会賞記念品費	0	70,000	70,000
研究奨励賞記念品	40,756	60,756	20,000
論文賞記念品	15,880	8,005	7,875
受賞者懇親会費	0	54,000	54,000
受賞者参加費	0	6,000	6,000
渡邊萬次郎賞記念品	4,374	83,564	79,190
発表賞支援金	100,000	50,000	50,000
Elements購読会費	1,400,316	1,485,646	85,330
管理費	5,929,848	5,510,674	419,174
給料手当	3,400,874	3,198,164	202,710
臨時雇賃金	233,850	205,750	28,100
法定福利費	481,974	509,857	27,883
旅費交通費	476,720	549,770	73,050
通信運搬費	233,587	235,150	1,563
水道光熱費	19,938	19,131	807
地代家賃	0	61,863	61,863
消耗品費	409,406	192,266	217,140
ポスター印刷費	28,188	0	28,188
支払報酬料	412,400	356,400	56,000
支払手数料	90,357	97,198	6,841
租税公課	12,915	200	12,715
支払寄付金	50,000	50,000	0
YMO補助	62,640	34,560	28,080
雑費	16,999	365	16,634
経常費用計	13,935,445	14,514,285	578,840

評価損益等調整前当期経常増減額	1,518,783	159,436	1,359,347
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	1,518,783	159,436	1,359,347
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前一般正味財産増減額	1,518,783	159,436	1,359,347
法人税、住民税及び事業税	77,700	77,300	400
当期一般正味財産増減額	1,596,483	236,736	1,359,747
一般正味財産期首残高	11,734,701	11,971,437	236,736
一般正味財産期末残高	10,138,218	11,734,701	1,596,483
正味財産期末残高	10,138,218	11,734,701	1,596,483

### (3)財務諸表に対する注記

財務諸表に対する注記							
一般社団法人日本鉱物科学会							
1. 重要な会計方針							
(1) 消費税等の会計処理							
消費税及び地方消費税の会計処理は税込方式によっている。							
2. 特定資産の増減額及びその残高							
特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。							
(単位：円)							
	科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高		
特定資産							
	学会賞等刊行基金	3,476,982	24	0	3,477,006		
	学会賞・奨励賞・論文賞基金	1,147,741	6,011	186,636	967,116		
	渡邊萬次郎賞基金	10,948	86,000	4,374	92,574		
	国際学会・年会基金	2,040,119	18	140,828	1,899,309		
	小 計	6,675,790	92,053	331,838	6,436,005		
	合 計	6,675,790	92,053	331,838	6,436,005		
3. 特定資産の財源等の内訳							
特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。							
(単位：円)							
	科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に 対応する額)		
特定資産							
	学会賞等刊行基金	3,477,006	(0)	(3,477,006)	(0)		
	学会賞・奨励賞・論文賞基金	967,116	(0)	(967,116)	(0)		
	渡邊萬次郎賞基金	92,574	(0)	(92,574)	(0)		
	国際学会・年会基金	1,899,309	(0)	(1,899,309)	(0)		
	小 計	6,436,005	(0)	(6,436,005)	(0)		
	合 計	6,436,005	(0)	(6,436,005)	(0)		
4. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高							
補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。							
(単位：円)							
	補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
	コンベンション開催助成金	(一財)山形コンベンションビューロー	0	150,000	150,000	0	
	合 計		0	150,000	150,000	0	

### (4)附属明細書

附属明細書	
一般社団法人日本鉱物科学会	
1. 特定資産の明細	
特定資産については財務諸表に対する注記に記載しているため、附属明細書での記載を省略している。	
2. 引当金の明細	
該当なし。	

# 監査報告書

令和元年（2019年）8月29日

一般社団法人日本鉱物科学会  
代表理事（会長） 榎並 正樹 殿  
代表理事（副会長） 宮脇 律郎 殿

一般社団法人日本鉱物科学会  
監事 平島 崇男



私監事は、2018年(平成30年)8月1日から2019年(令和元年)7月31日までの一般社団法人日本鉱物科学会第1期事業年度における会計及び業務の監査を行いました。その結果につき次の通り報告します。

## 1. 監査の方法の概要

- (1) 会計監査について、帳簿及び関係書類の閲覧等必要と認められる監査手続きを用いて計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその付属明細書の適正性を検討しました。
- (2) 業務監査については、理事会及びその他の会議に出席し、理事から業務の方向を聴取し、関係書類の閲覧など必要と認められる監査手続きを用いて、理事の業務執行の妥当性を検討しました。

## 2. 監査意見

- (1) 計算書類及び付属明細書は、一般社団法人日本鉱物科学会の財政及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。
- (2) 事業報告書は、法令及び定款に従い一般社団法人日本鉱物科学会の状況を正しく示しているものと認めます。
- (3) 理事の業務の執行に関し、不正な行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

以上